

# 令和3年中 夏山遭難の発生状況

## 北アルプス 後立山連峰

9件9人

- ・大雪渓、落石に注意
- ・不帰ノ嶮は梯子、鎖の連続

## その他の山岳

15件15人

- ・熱中症や持病の悪化に注意
- ・トレーニング不足に注意

## 北アルプス 槍・穂高連峰

29件31人

- ・ザイテングラート、滑落注意
- ・槍沢で転倒やバテに注意

## 北ア・その他

17件17人

## ハケ岳連峰

7件7人

- ・急峻な岩場での転倒多し
- ・荒天時の道迷いに注意

## 中央アルプス

7件7人

- ・宝剣岳、転倒や滑落に注意

## 南アルプス

4件5人

- ・例年道迷い遭難発生
- ・ルート of 事前確認の徹底

夏山(7月～8月)：年別遭難発生状況(過去5年間)

区分 年別	遭難件数	遭難者数					計
		死者	行方不明	負傷	無事救助		
平成29年	101	17	1	57	33	108	
平成30年	117	15	3	59	44	121	
令和元年	99	5	4	63	34	106	
令和2年	47	4	0	26	22	52	
令和3年	88	12	1	43	35	91	



# 夏山遭難の 傾向



## 40代以上の遭難者多し！

遭難者年齢は、40、50代が4割（91人中40人）、60代以上が4割（91人中40人）。

自身の加齢による体力や筋力、バランス感覚、持久力の低下を認識し、普段から負荷を掛けた継続的なトレーニングをしましょう。

また、登山の基本は「早出・早着」です。ゆとりある計画を！



## 男性登山者！要注意！

遭難者の性別では、男性が過半数を占めます（91人中59人）。

「自分の限界に挑戦」

「ピークハントの達成」

など、無理な登山は禁物です。

自身や仲間のレベルに見合った山域を選び、天候や体力の状況に合わせた無理のない計画を立て、登山を楽しみましょう。

## 転・滑落、転倒の遭難多数！

転落・滑落、転倒の多くは下山中で、頭部の負傷は致命的な重大遭難に直結します（88件中48件）。

疲労の蓄積により、集中力の低下が原因にあります。山頂は折り返し地点の認識を持ち、急峻な山域では、ヘルメットを着用しましょう。



# 山岳遭難防止常駐隊の活動と考察

北アルプス南部地区常駐隊隊長 加島 博文

## 組織と活動内容

長野県山岳遭難防止常駐隊は、通称「常駐隊」と呼ばれる、長野県山岳遭難防止対策協会（会長：阿部守一県知事）が設置する組織です。北アルプス南部地区常駐隊は、沢山のお客様が訪れる海の日頃から、紅葉の時期に、北アルプスの涸沢にある「長野県涸沢山岳総合相談所」を救助隊基地として活動しています。



長野県涸沢山岳総合相談所

エリアは、飛騨山脈の槍ヶ岳～穂高連峰・焼岳、常念山脈の燕岳～蝶ヶ岳・大滝山、上高地周辺の霞沢岳・六百山と広範囲です。シーズン中10～15名程の隊員が涸沢の救助隊基地を拠点に2名一組となり、各地の山小屋にパトロール巡回しながら、遭難防止活動を行っています。出会ったお客様と会話する中で危険を判断し、未然にリスクを軽減していく事が、常駐隊の使命と考えています。

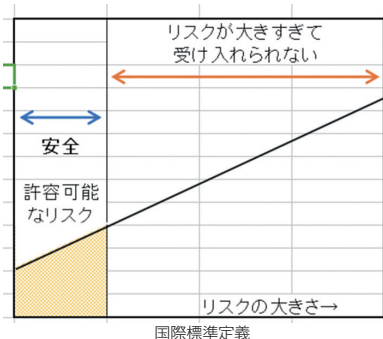
また、遭難発生時には長野県警の要請を受け、各山小屋の救助隊員、長野県警察山岳救助隊、航空隊と共に協力し合いながら、救助活動に尽力します。

昨年度から横尾山荘と森林管理署のご協力により、横尾に救助隊前進基地を設置させていただき、本格的な山域に入る手前で相談活動が実施出来るようになりました。横尾に登山ルート状況や天候・技術的アドバイス等を行える相談施設が出来たことで、今まで以上に遭難防止活動に貢献できると考えています。

## 安全登山への一考察

いつもよく耳にする言葉だと思いますが「安全登山」って、いったい何でしょうか。辞典で調べてみると「安全とは：容認できないリスクがない事」とあります。言い換えると、安全な状態であっても「受容できるリスクは存在している」と言えます。リスクは常時あり続けます。ただある一点で妥協できるポイントがあり、そこから先が安全となるのです。

【広辞苑】では「安全とは：安らかで危険のない事。」



平穩無事」とあります。また、「日本はこれまで安全とは自然と守られているもの、又は、誰かが守ってくれているものと考えていたので、日本では現在においても「消費者の多くは」安全といえば一切の危険が無い「絶対安全」を考える人が多く、リスクの概念や消費者責任の意識に乏しい」とあります。

そこで肝心の山での”安全”を考えたときに、どうすればいいのでしょうか。皆さんお気づきの通り、「危険」「リスク」を減らせばいいのです。

過去の遭難事例から、事故の要因は大別して 6 つに分けられます。

<p><b>①計画的要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実力以上の山岳・ルートを選定ミス</li> <li>・登山計画書の未届・保険の未加入</li> <li>・出かける前の準備不足</li> </ul>	<p><b>②体力的要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーニング不足</li> <li>・技量不足</li> <li>・健康管理ができない</li> </ul>
<p><b>③装備的要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な装備を所持していない</li> <li>・使い方を熟知していない</li> </ul>	<p><b>④気象的要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の天候を無視した強行登山</li> <li>・登山道の状況把握ミス (好天後の登山道は浮石が多く滑りやすい)</li> </ul>
<p><b>⑤外力的要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲への注意・観察不足による落石・雷被災</li> <li>・ヘルメットの未着用</li> </ul>	<p><b>⑥ハートの要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何か起きたときに可能な限り自己完結できる精神力不足</li> <li>・山に対する謙虚な気持ち不足</li> <li>・「また来れる」という控えめ不足</li> </ul>

決して1つだけの要因ではなく、複数の要因の積み重ねが事故につながります。一つ一つのリスクを減らしていけば、事故には成っていなかった事が、ほとんどではないでしょうか。

## 登山者へのお願い

「安全」を考察してきましたが、心の満足や楽しさを求めて登山に来るはずです。その中で、少しでも「危険(リスク)」を察知する感覚を意識してみてください。そんな皆さんを常駐隊員は、山を愛する仲間として、お待ちしております。

# 夏山天気予報

北アルプス西穂山荘 常務取締役兼支配人 栗澤 徹

## 梅雨時の注意点

7月になると前線の活動が活発化し、`梅雨末期の大雨、と言われる集中豪雨が発生することがあります。山で大雨に見舞われれば、土砂崩れや崖崩れ、沢の増水や氾濫といった多くの危険にさらされることとなります。

更に山岳地帯に暖かく湿った風が流れ込むと、山の斜面に沿ってその風が強制的に上昇させられるため、雲が発達しやすくなります。平地よりも強く激しい雨に見舞われる場合が多く、嚴重な注意が必要です。

また、この時期であっても気温が急激に低下して0℃近くになり、冷たい雨やみぞれが降ることもあります。体の濡れ・気温低下・強風等によって低体温症に陥るため、油断は禁物です。上空に寒気があるときは落雷の可能性もあります。

## 夏の気圧配置

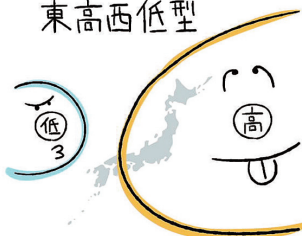
### 南高北低型



夏の気圧配置には、大きく分けて「南高北低型」と「東高西低型」の二つのパターンがあります。

「南高北低型」は左上のイラストにあるように、日本を南から広く太平洋高気圧が覆い、北の方の気圧が低くなっている気圧配置です。夏にはよく見られ、この形になると暫く同じ気圧配置が続くことが多くなります。また高気圧が朝鮮半島付近まで張り出し、クジラの尾のような形になったものは『クジラの尾型』とも呼ばれ、非常に暑い日が数日続きます。南高北低型の気圧配置のとき、上空に強い寒気が入ると雷が発生しやすくなるので、警戒が必要です。

### 東高西低型



「東高西低型」は左下のイラストのように、高気圧の中心がやや北の方にあり、東から日本列島を覆っている場合で、西の大陸や朝鮮半島は低圧部になります。この場合、太平洋高気圧の位置によっては、南の海上から暖かく湿った空気が入り、山では雲が湧きやすくなります。山の麓は晴れているのに、山の上だけが雲に覆われ、なかなか晴れません。

## 雷の接近を知る

事前に気象情報を確認し、危険を避けることが第一ですが、登山中に周囲の気象状況に気を配ることも重要です。「ヒョウが降ってきた」「急に冷たい風が吹いてきた」「上空の雲が急激に黒さを増している」等の前兆があれば、すぐに退避行動をとらなければなりません。雷鳴は10数km先くらいから聞こえてきます。積乱雲は時速10～40kmくらいで移動しますので、音が聞こえ始めたら、あっという間に近付いてしまうことを覚えておきましょう。



# 夏山装備のアドバイス

カモシカスポーツ山の店・松本店 福沢 賢司

## 天候について

晴天時は10時を過ぎれば積乱雲が発生し、午後は雷雨となるのが一般的であるため、昼過ぎには目的地に到着するのが望ましいです。山は平地よりも涼しいものの、温暖化の影響で気温が高くなっているため、熱中症になる登山者が増えています。また8月以降は台風の影響もあり、山では暴風雨になるので、天気予報をこまめに確認する必要があります。近年は短時間に局地的に雨が降るため、沢筋などは増水の可能性があり、予定ルートの変更が必要な場合もあります。

## 夏ならではの装備品

熱中症対策としてスポーツドリンクなどを活用して汗で失った体内の塩分などの補給が必要になります。稜線などは日差しを遮るものがないため帽子などで体温上昇への対策をとったり、体温が上がりにすぎないよう通気性の良いウェアで行動するのが望ましいです。近年の気温上昇により臨機応変に途中で水分をボトルへ補給する必要もあります。

## プラスアルファでおすすめの装備品

### ・ハイドレーション

ザックをおろして休憩するときのみの水分補給だけでは、脱水症状に繋がります。目安として初期は唇が渴いたりし、さらに尿の色が黄色になれば脱水症状になっています。歩きながら少しずつ水分補給することで吸収がされやすくなり、結果として体への水分吸収量が増えます。また一度に多量に飲まないことから、登山中の排尿の回数も減ることもなります。



### ・ヘルメット

より安全性の高い、ヘルメット内部にサイドプロテクション（頭部側面）のついたモデルが発売されています。選ぶポイントとしては、かぶったときのフィット感を重視してください。またヘルメットを使用することのないアプローチ時はザックにつけて携帯するため重量も選ぶポイントになります。



### ・携帯電話などの予備バッテリー

写真の撮影や地図アプリなどを活用する方が多いと思います。ついついバッテリーの消費も多くなりますので、予備のバッテリーを持っていくと安心です。

